

# 大雨に対する農作物等の被害防止対策について

気象災害対策 R 5 - 5  
令和 5 年 6 月 1 日  
農林総合研究センター

## I 気象の概況

石川県では、2日明け方から激しい雨（1時間に40ミリ）が降り、梅雨前線の活動状況によっては、警報級の非常に激しい雨が降る恐れがあります。

能登地方では、地震の影響により、地盤が軟弱化しており、少しの降雨でも、ほ場への浸水、冠水や土砂の流入等が生じるなど、農作物等への影響が懸念されています。

今後の気象情報に十分留意し、被害防止対策に万全を期してください。

## II 被害防止対策

### 1 共通事項

- (1) 事故防止の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨が収まってから行う。
- (2) 浸水や冠水等を受けたほ場では、植物体への影響をできるだけ小さくするために、速やかな排水に努める。
- (3) 浸水や冠水等により、植物体が影響を受けた場合には、今後、病害の多発が懸念されることから、適切な防除に努める。  
なお、農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、周辺への飛散低減対策を講ずる。
- (4) 浸水や冠水等により農業機械等が被害を受けた場合には、今後の農作業に支障が生じないように、速やかに必要な点検及び整備を行う。
- (5) 土砂や濁水等の流入被害を受けた農業施設等では、気象情報を十分確認の上、再度事故が発生しないよう十分注意し、土砂の除去等を行う。
- (6) 農道等の路肩が軟弱になっている恐れがあるので、農業機械の走行に当たっては速度を落とし、路肩に寄りすぎないように注意する。また、ほ場への出入口が軟弱となっている場合には、補強して機械が安全に出入りできるようにする。

### 2 水 稲

- (1) 浸水や冠水したほ場では、できるだけ早くほ場内の排水に努める。
- (2) 河川からほ場や用排水路に土砂が流入した場合は、土砂を除去し通水を確保する。
- (3) 浸水や冠水したほ場では、稲体が軟弱化し病害の発生が懸念されるので、排水後もほ場巡回を行い、病害の早期発見に努め防除を徹底する。

### 3 麦

- (1) ほ場内の滞水は、機械収穫作業を遅延させることになるため、速やかな排水に努める。
- (2) 浸水や冠水したほ場では、できるだけ早く溝の流入土砂の除去や溝の手直しを行い、ほ場内や排水溝の滞水を排出する。

### 4 野菜・花き

- (1) 露地栽培（すいか、かぼちゃ、ねぎ、ブロッコリー、たまねぎ、キク 等）
  - ① 速やかに表面排水が図られるよう排水溝の整備を行う。すいか、かぼちゃ等ではつる先のマルチフィルム上に雨水が滞水しないようマルチに穴をあける。
  - ② 豪雨により圃場が冠水した場合、冠水時間が3時間を超えると高温時には蒸れや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに排水に努める。
  - ③ 叩きつけるような雨は跳ね上がりや雨粒の飛散が著しく、炭疽病や疫病の伝搬に好条件である。また、疫病は遊走子によっても表面停滞水の中を泳いで加速度的に伝搬する。薬剤散布は雨前、雨後散布が効果的であり病原菌が植物体に侵入しないように薬剤の作用特性を考慮して行う。
- (2) 施設栽培
  - ① 外周の明渠をやや深く掘り、雨水の流入を防止する。
  - ② 施設内に雨水が流入した場合には速やかに排水対策を行うとともに、薬剤散布により病気の蔓延を防止する。

### 5 果 樹（なし、りんご、ぶどう、かき、もも、くり、いちじく 等）

落葉性病害や果実腐敗性病害の発生が懸念されるので、天候回復後の防除を徹底する。

### 6 畜 産

- (1) 畜舎への雨水の侵入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- (2) 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。